

自己評価報告書(最終報告)

報告者

学校臨床実践コース
／阿形 恒秀

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

平成23年度には、科学研究費補助金(研究活動スタート支援)に、「自己・他者・未来への信頼に基づく『志』をはぐむ学習プログラムの開発」の研究課題名で応募したが、不採択だった。

神奈川県定時制通信制高校教頭会と神奈川県総合教育センターが共同で平成21年度から実施している、神奈川県の定時制通信制高校生徒を対象とした「学校・家庭生活に関するアンケート」の分析に、昨年9月より、本学の修了生からの依頼を受けて関わっている。アンケートは平成24年度以降も継続される予定なので、本調査の集計結果の分析と、定時制通信制高校に数多く在籍する「小中学校での不登校経験者」に対する支援の在り方の研究というテーマで、科研費申請を検討してみたい。

2. 点検・評価

神奈川県の定時制通信制高校生徒を対象とした「学校・家庭生活に関するアンケート」の分析に関連する科研費申請は実現できなかった。

今年度は、学長裁量プロジェクト経費を活用した徳島県教育委員会との共同研究「徳島県における今後の人口減少社会に対応した教育の在り方研究」や、兵庫教育大学との共同研究「高等学校の『在り方生き方教育』における教育課程と指導方法等の改善・充実に関する研究」に取り組んだが、来年度は、これらの研究のさらなる深化を図るために、科研費申請を検討したい。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

平成23年度は、現職院生の週録に書かれた感想・コメントを抜粋して、広報用資料「教職大学院の院生の声」を作成した。今年度も、院生が感じている手応えや充実感をまとめて、鳴教教職大学院の活気ある状況がリアルに伝わるような広報パンフ・資料の作成に寄与したい。

また、昨年度は着任1日目ということもあってあまり取り組めなかったが、自身が30年間勤務した大阪の高等学校及び教育委員会との縁を活かして、広報・派遣依頼・諸事業への協力(「教育コース」を設置予定の府立高校の授業支援を検討中)など、大阪府との連携関係の強化に寄与したい。

2. 点検・評価

大阪府教育委員会に対しては、以前に自身が勤務していた高等学校課を訪問時に高等学校課長と面会し、本学への教員派遣について要望した。

また、大阪及び京都で実施された大学院説明会にスタッフとして参加した。
大学人学生募集活動としては、立命館大学・奈良女子大学・大阪芸術大学・帝塚山学院大学・千里金蘭大学・常磐会学園大学・阪南大学・大阪大谷大学を訪問し、本学大学院の特色や実績等について説明し学生への紹介を依頼した。
さらに、県内外での教員を対象とした講演などの場で、本学教職大学院について説明を行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

①着任して1年が経過し、本学のシステムや文化も概ね把握できたので、学校臨床実践コース及び学校教育実践コースの担当教員として、コース教員と協力して、コースの一層の充実に取り組む。

②院生に対しては、トレーニングアナリシス(教育分析)をモデルに、教職大学院における2年間を教師としての自己についての洞察を深める「教師分析」の期間ととらえ、「カリキュラムに基づく学習・研究活動」を核としつつも、院生に対する個別指導の場を全人的な対話と援助の場として位置づけ、院生からの言及・相談に応じて「院生が直面する学習・研究以外の問題」についても共感的・援助的に関与し、院生の人間力・教師力を深めていく。

2. 点検・評価

教職大学院における担当授業については、教材や授業内容のさらなる充実を図り、院生が手ごたえを感じる授業を実現できたと考えている。また、学校臨床実践コースの院生に対しては、ゼミ生に対するきめ細かな指導を心がけ、内容の充実した最終成果報告書を取りまとめることができた。また、ゼミ生以外の院生とも、院生室に頻りに足を運びコミュニケーションを図った。

学校教育実践コースの学生に対しては、一部の授業の担当のみにとどまった。

II-2. 研究

1. 目標・計画

教育の実際の場面に即して「教師－生徒関係」を軸に教育活動を考察する「臨床教育」の視座に立脚し、昨年度までの30年間の教諭・教頭・指導主事・校長経験を踏まえて、研究に取り組む。

①「生徒指導」「教育相談」の領域について、「児童・生徒の自立に向けた教師の『優しさ』と『厳しさ』」「教師に向けられる児童・生徒の甘えと反抗のストローク」「規律指導と教育相談」「教育と心理療法の相補性」などのテーマについて研究に取り組む。

②「生徒指導」「教育相談」以外の領域については、教職大学院における新カリキュラムの検討作業の中で「人権教育」に関する新科目の設置を提案しているので、その科目内容の検討と教材開発を進めながら、「『差別をしない』から『豊かにつながる』への人権教育の転換」「教育相談の知と心を活かした人権教育」などのテーマについて研究に取り組む。

2. 点検・評価

神奈川県の定時制通信制高校生徒を対象とした「学校・家庭生活に関するアンケート」の分析を踏まえて、共著論文「不登校経験のある生徒にとって望まれる定時制・通信制高校のあり方」をまとめ日本教育実践学会に投稿した(現在審査結果待ち)。

また、徳島県教育委員会との共同研究「徳島県における今後の人口減少社会に対応した教育の在り方研究」に、プロジェクトチームの統括者としてかわり、12月に中間まとめを、3月に最終報告書を取りまとめた。

さらに、来年度から教職大学院のカリキュラムが改編されるにあたって、新科目「人権教育の実践と課題」を立案・提起し、来年度の開講に向けた準備・研究に取り組んだ。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

担当としては、P2現職院生担当コラボコーディネーター、及び異校種フィールドワーク実施統括者として、その役割を的確に遂行しつつ、公立高校や教育委員会において「生徒・保護者・地域関係者等のニーズ・願いに学校が応えているか」「OJTに基づく学校運営ができていないか」「市民目線で見た場合に理解・信頼を得られるか」「説明責任を果たしているか」などを念頭に置いた学校経営を担った経験を踏まえ、昨年度の業務の中で感じた「違和感」の意味を丁寧に吟味・検証し、大学にとって必要なものについては自身が適応するように努めつつ、改善の必要な点については積極的に提言を行っていく。

2. 点検・評価

異校種フィールドワークに関しては、実施統括者として、実習説明会での説明スライドや資料に工夫を加えるなど、前例主義を排して役割を遂行、院生の評価も良かった。

また、来年度からの新カリキュラムへの移行のための準備として、実習の手引きの改訂作業などを自ら進んで引き受け、立案した。

さらに、来年度から教職大学院の担当コースが教員養成特別コースに変更となる関係で、年度後半には教員養成特別コース及び学部学校教育実践コースの今後の運営に関する会議に出席し、これまでの実務経験を踏まえた提言を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

教員養成大学の学術知は、教育現場の学校知と地域社会の世間知とつながることで深化を図ることができるという観点に立って、

①附属学校との連携については、昨年度、附属中学校における講演(生徒向け講演、保護者会講演)やケース会議への出席・助言、保護者の相談への対応など、附属中学校との連携に取り組んだので、今年度も継続したい。

②社会との連携については、地域社会に出向いての講演や助言の機会があれば、積極的に引き受けていく。

③国際交流に関しては、第5回日中教師教育学術研究集会の準備委員に任じられたので、9月に北京で開催される研究集会が実り多い会となるように寄与したい。

2. 点検・評価

附属学校との連携については、昨年度に引き続き、保護者会での講演を行った。

社会との連携については、先に示した徳島県教育委員会との共同研究・成果発表のほか、徳島市教育研究所の研究発表会での講評、高知県高校生指導主事会での講演、鈴鹿市教育委員会との連携事業に係る講演や指導助言、滋賀県教育委員会の教職二次研修での講演なども行った。

教育支援講師・アドバイザー事業では、高校における出前授業を3件担当した。

国際交流については、北京師範大学で行われた第5回日中教師教育学術研究集会に参加し、院生との共同発表を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

徳島県教育委員会との共同研究「徳島県における今後の人口減少社会に対応した教育の在り方研究」については、県の関係者からも高い評価をいただき、本学と県教委の関係を深めることができた。また、少子高齢化社会を見据えた先駆的な研究として、本学の取組が注目を集め、県内外の学校関係者やマスコミからの問い合わせも多く、新聞社・テレビ局などからも取材を受け本学の取組が紹介された。